

# 夢中熱中青春ライフ!

## 7回シリーズ

朗読ボランティア 麦の会

今回は、市広報おおだてを声の広報に編集して目の不自由な人たちに届けている麦の会をご紹介します。会長の川手スエ子さんからお話を伺いました。

### 朗読奉仕者養成講座を受講したのがきっかけ

私たちが活動を始めたのは昭和五十七年からで、現在は、会員は女性十人です。五十六年に、大館で開催された秋田県立点字図書館主催の朗読奉仕者養成講座を受講したのがきっかけです。講習を受けたのだから何かやっ



中央公民館で朗読の吹き込みをしている会員

てみようとしていたところ、市社会教育課から「市でやっている目の不自由な人たちへの市広報朗読をやってみませんか」とのお話があり、受講生の中の四人で始めました。

最初は、録音機械の操作など一通り覚えるまで市の広報担当の人から教えてもらいましたが、普通のカセットデッキ二台を使っている録音でたいへんでした。

今は音声録音調整装置付きの機械を使っていますが、いぶ楽になりましたが、それでも一人で朗読の声とバックに流す音楽との調整を同時にしますからたいへんです。それに、アクセントがおかしかったり読み間違いがあったりして、吹き込みを何度もやり直しています。会員は、学生時代に演劇部や放送部の経験があり、長く続けてくれる人を口伝みて集めています。



例会に集まった会員の皆さん(後列右から2人目が会長の川手さん)

### 現在も 試行錯誤の繰り返し

会の活動は、月二回発行される市広報の吹き込みと三カ月に一回の例会の開催、そのほかに目の不自由な人たちの大会の手伝いなどを行っています。例会では朗読や編集の仕方、機械操作の技術上のことなどの話し合いがほとんどです。それは、私たちは研修を受ける機会がないためそれぞれが試行錯誤を繰り返しながらより良いものを目指しているからです。研修の機会があれば、もっとうまくなれると思うのですが。

これからは、市広報だけでなく、話題になっている新聞記事、小説などの朗読も要望に応じてやれるようにしていきたいと思っています。

## 仙台発 → 大館着

### 前略

## 大館市民になりました⑨

▽今回は金坂にお住まいの小島雄悦さんご一家です。Q・ご家族は何人ですか?

妻と子供二人の四人です。長女は城南小学校、長男は大館八幡幼稚園に通っています。

Q・どちらから転入されましたか?

仙台市からです。私は今年の二月に、家族は四月にきました。

Q・大館の第一印象はいかがでしたか?

皆さん親切でやさしいし、まち全体にごみがなくてきれいですね。まちの中に白鳥がいて、子供を連れて行ったら喜びました。観光ガイドブックなどで、忠犬ハチ公の古里だから秋田犬がいっぱいいて、きりたんぼ屋さんがあちらこちらにあるとイメージしてたんです。でも、秋田犬はなかなか見られないのにはガッカリしましたし、きりたんぼ屋さんの看板はほとんど目に付きませんでした。それに魚屋さんが少ないみたいです。

Q・食べ物や言葉などでとまどいはありませんか?

私も妻も岩手県出身のせいか、味付けや言葉などでは違和感はありませんね。

Q・大館にどんなことを望みますか?

鉱山などを始めとした産業が不振ですから、企業誘致の促進を含めた基盤産業を整備するなどして活性化を図ったらと思います。また、近くの十和田湖、八幡平、男鹿などへの観光客を大館に引き入れるように、市内の温泉街や宿泊施設を整備したらと思います。



雄悦さんと信さん、佳世ちゃんと貴明くんです。